

唇顎口蓋裂児と矯正歯科との繋がり

1975.4 口腔外科入局

1979.2 矯正歯科入局

1980 カナダ トロント Sick Children
hospital ランキャスター Cleft Palate Clinic、
シカゴ、イリノイ州立大学顎顔面発達研究所見学

1983.4 市立函館病院歯科

1986.4 みはら歯科矯正クリニック開設

日本口蓋裂学会報告

1978.5パラタルリフトの効果について

1991.7口蓋裂患者の意識調査

1992.7乳歯列時の前方牽引装置の効果

1995.7矯正治療中のパラタルリフト維持方法について

1996.6顎裂部周囲歯牙の経年的形成状態について

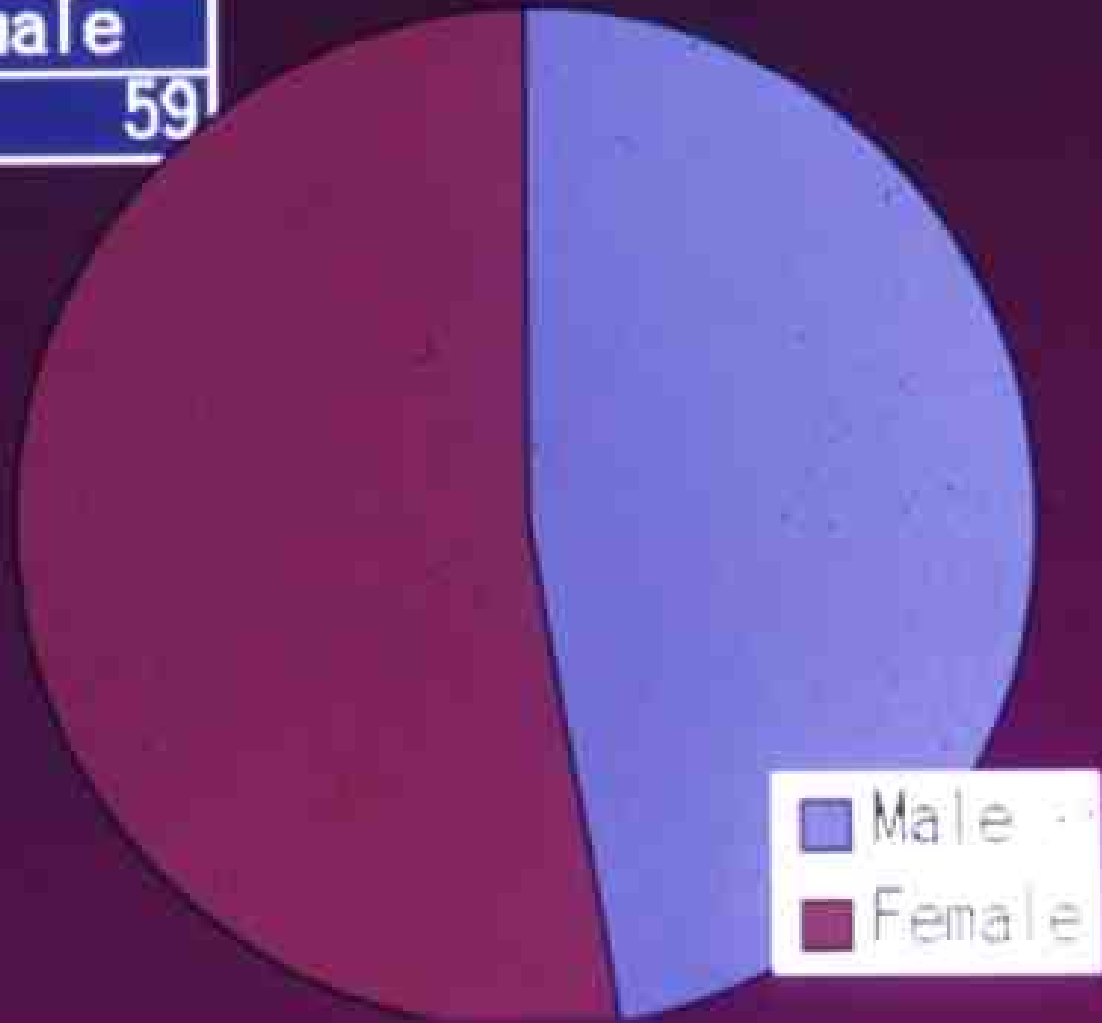
1999.6顎裂部骨移植部への自家歯牙移植の可能性

2001.5顎裂骨移植部自家移植歯牙の移植および歯科矯正開始時期についての考察

以上

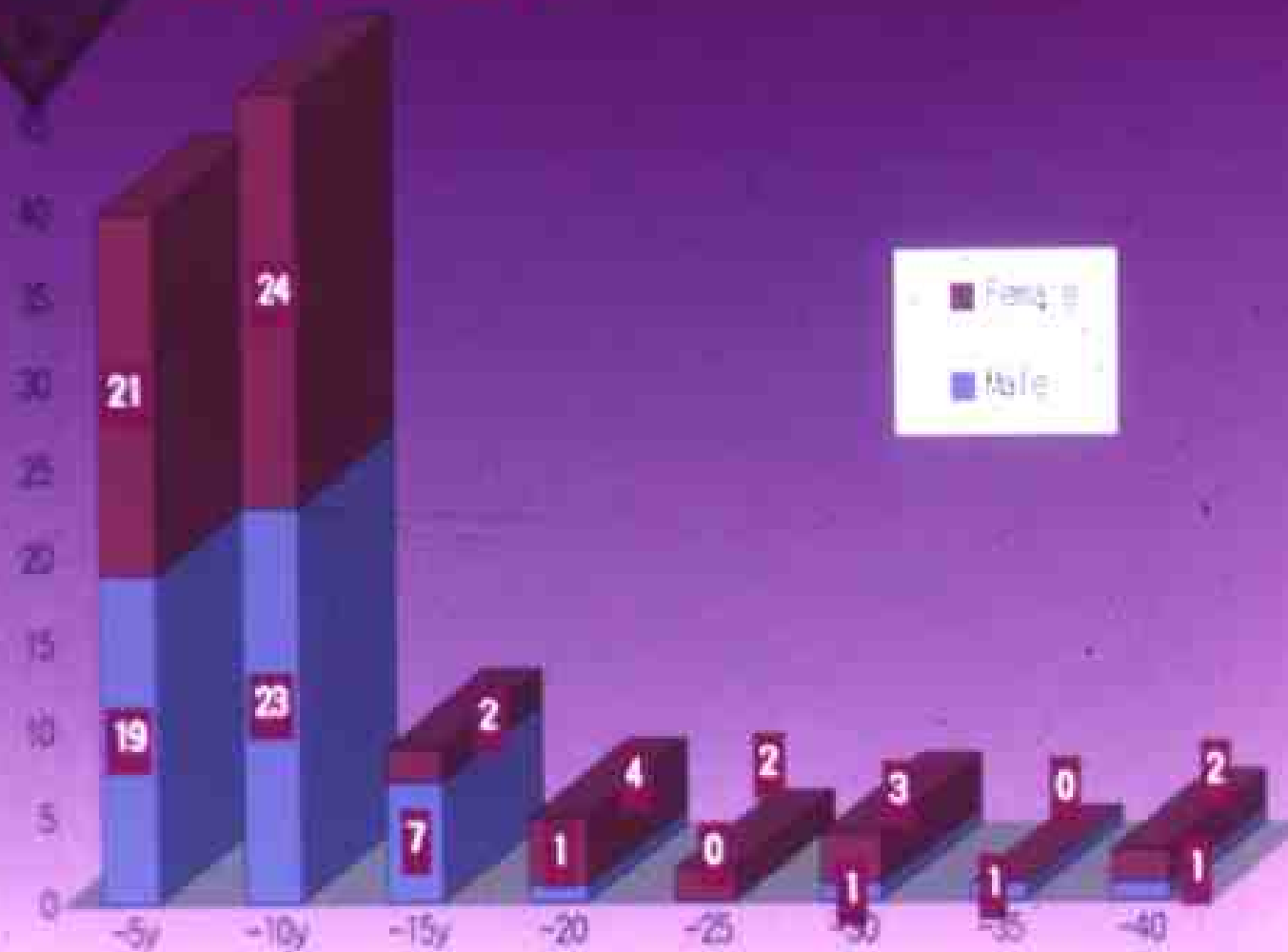
*Male and Female Ratio among Cleft Lip
and/or palate patients*

Male	Female
53	59

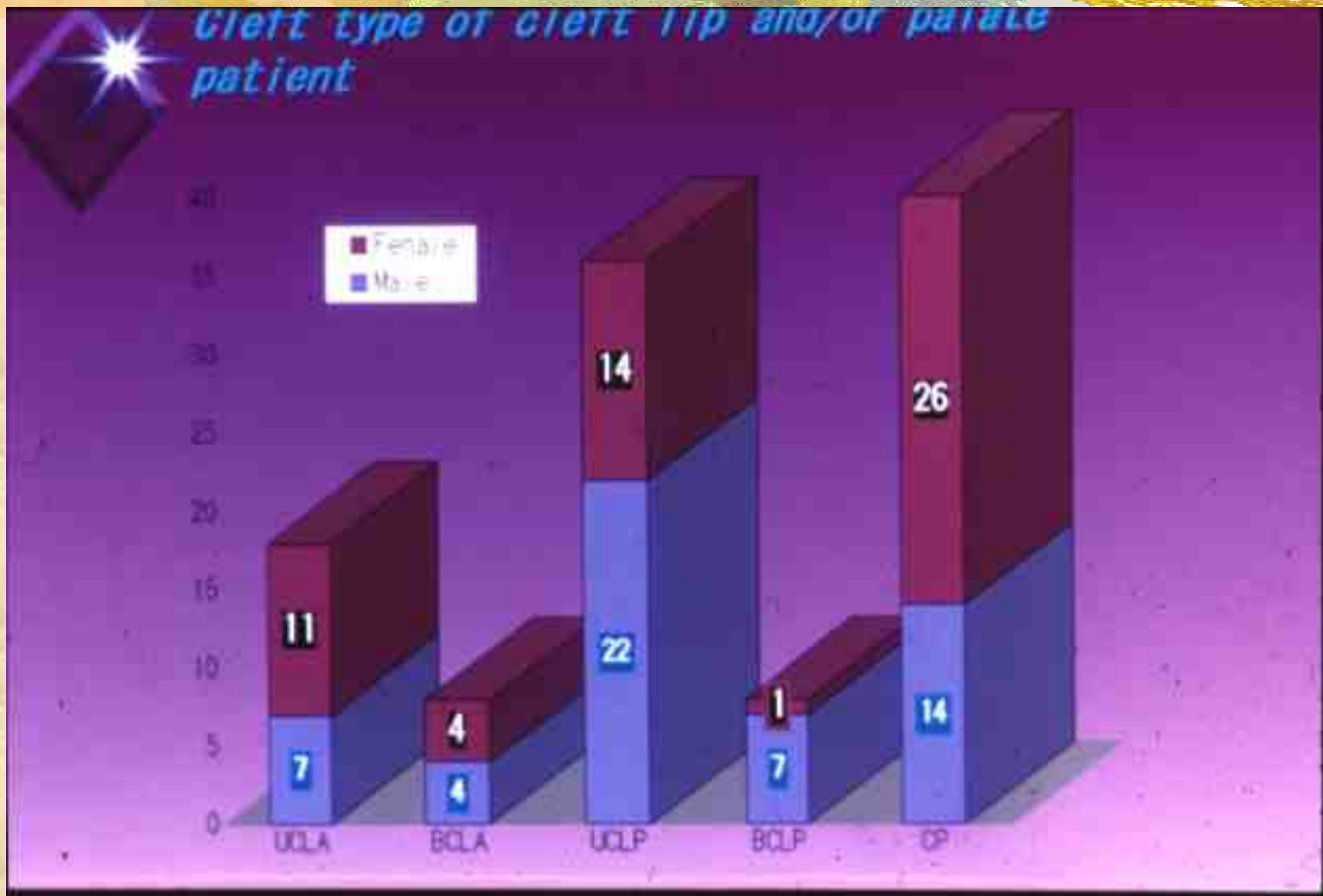


1986.4 - 1996.3

Age of cleft lip and/or palate during initial visit

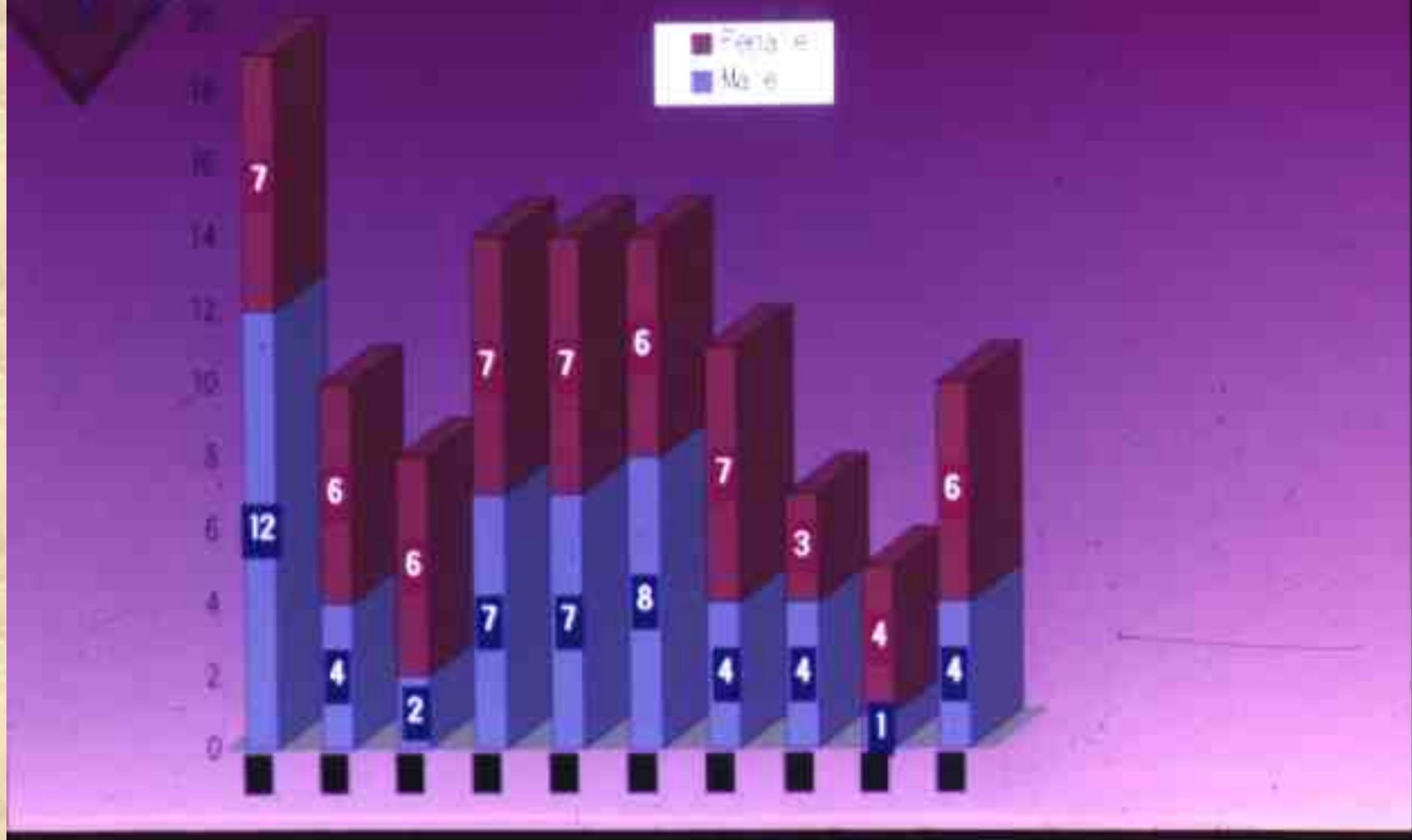


1986.4 - 1996.3



1986.4 - 1996.3

Annual prevalence of cleft lip and/or palate in the patient population



1986.4 - 1996.3



質問調査項目

- 1 自分が唇顎口蓋裂ということを知りましたか () 才
- 2 どのような方法で知りましたか
- 3 知ってどう思いましたか
- 4 どのような方法で知らせて欲しかったか。
- 5 この病気により性格が変わったと思えますか
- 6 唇顎口蓋裂のために自分が困ること困ったことはどれか
- 7 この疾患について他の人からいやなことをいわれたことがありますか。
- 8 だれからいわれましたか
- 9 同じ疾患をもつ方々を知っていますか
- 10 同じ様な疾患をもつ人たちと会ったり話したりしたいとおもいますか
- 11 この疾患を中心とした特定のサークルへ参加していますか
- 12 現在函館にて矯正治療を受けていますが、不安な点はありますか
- 13 矯正治療を始めてから良くなりましたか

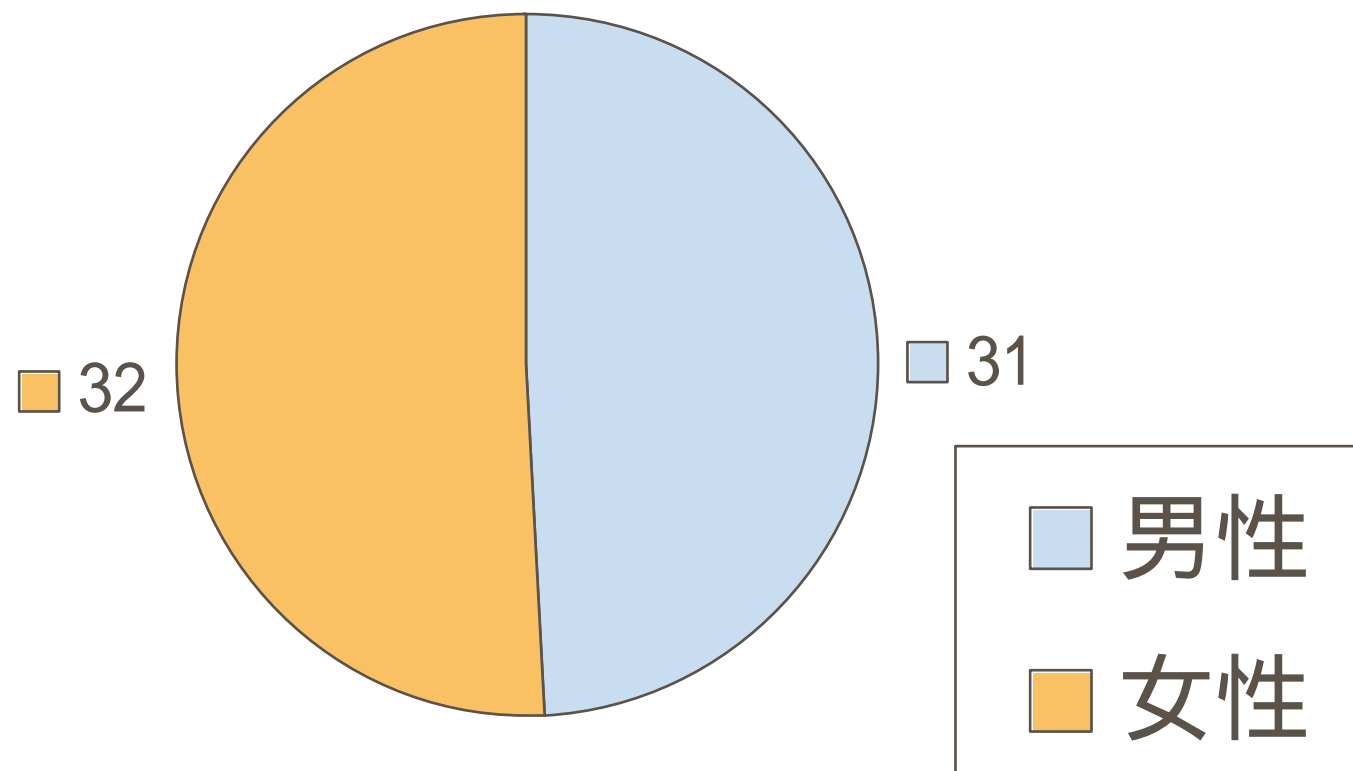


質問調査項目

- 14 矯正治療を始めてからどこが変わりましたか
- 15 言語治療を受けましたか
- 16 隣近所のひとはこの疾患を患っていますか
- 17 学校のひとはこの疾患を患っていますか
- 18 親戚のひとはこの疾患を患っていますか
- 19 隣近所のひとにこの疾患についてもっと理解して欲しいと思いますか
- 20 学校のひとにこの疾患についてもっと理解して欲しいと思いますか
- 21 親戚のひとにこの疾患についてもっと理解して欲しいと思いますか
- 22 この疾患について不利を感じたことはありますか

口蓋裂ガイドンス 2001.9

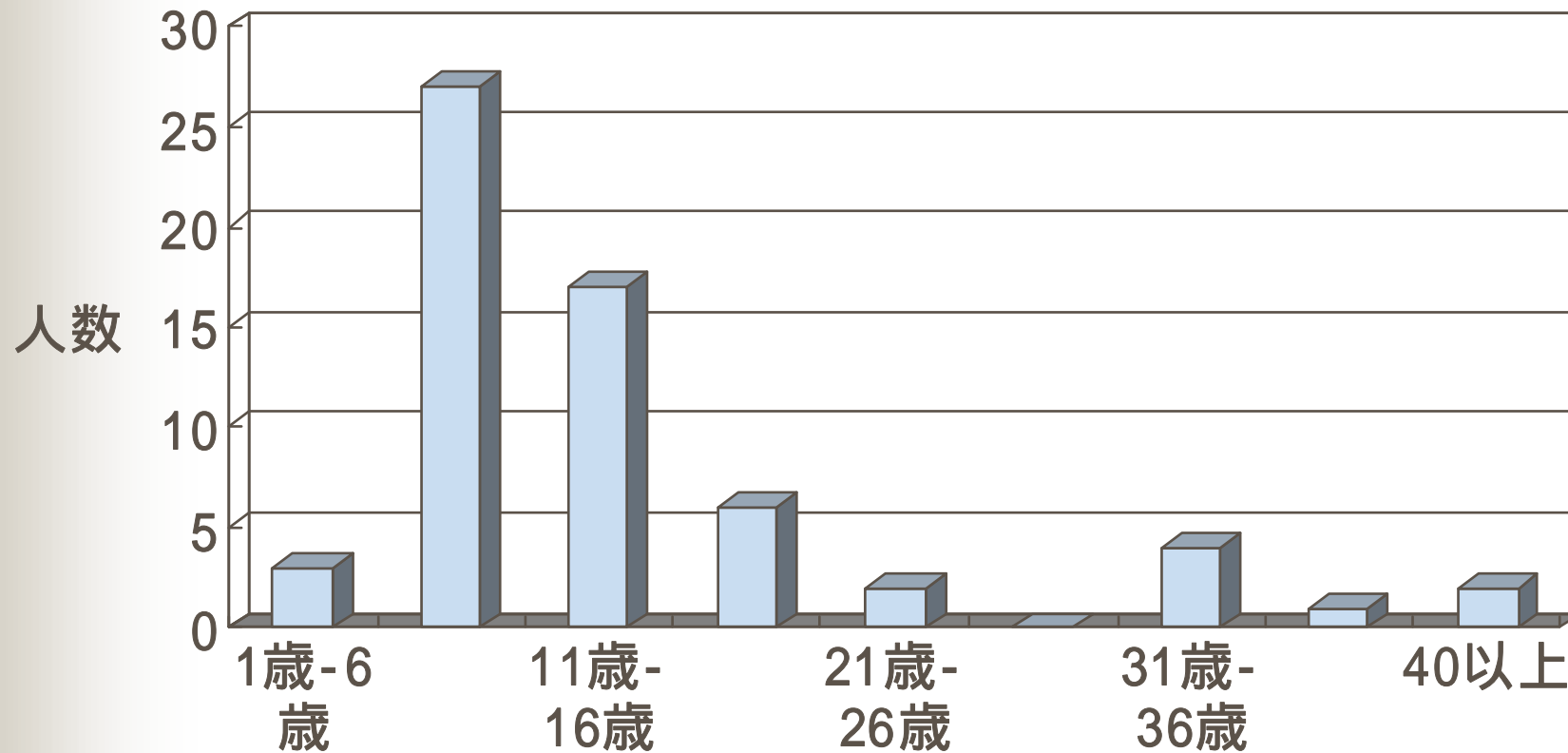
当院に来院した口蓋裂患者の意識調査
(1986.4-1990.12)



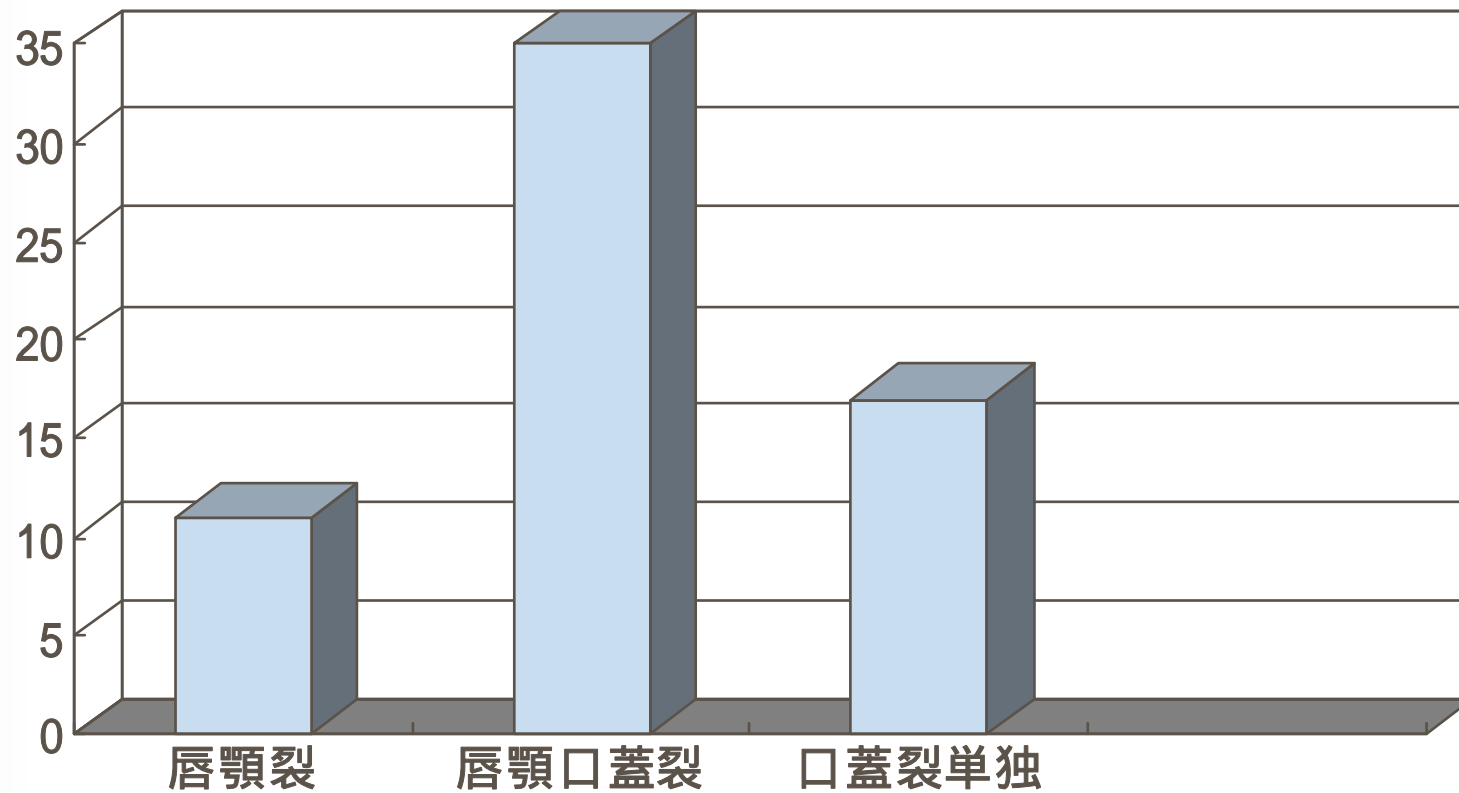
当院に来院した口蓋裂患者の意識調査

(1986.4-1990.12)

意識調査対象患者年齢

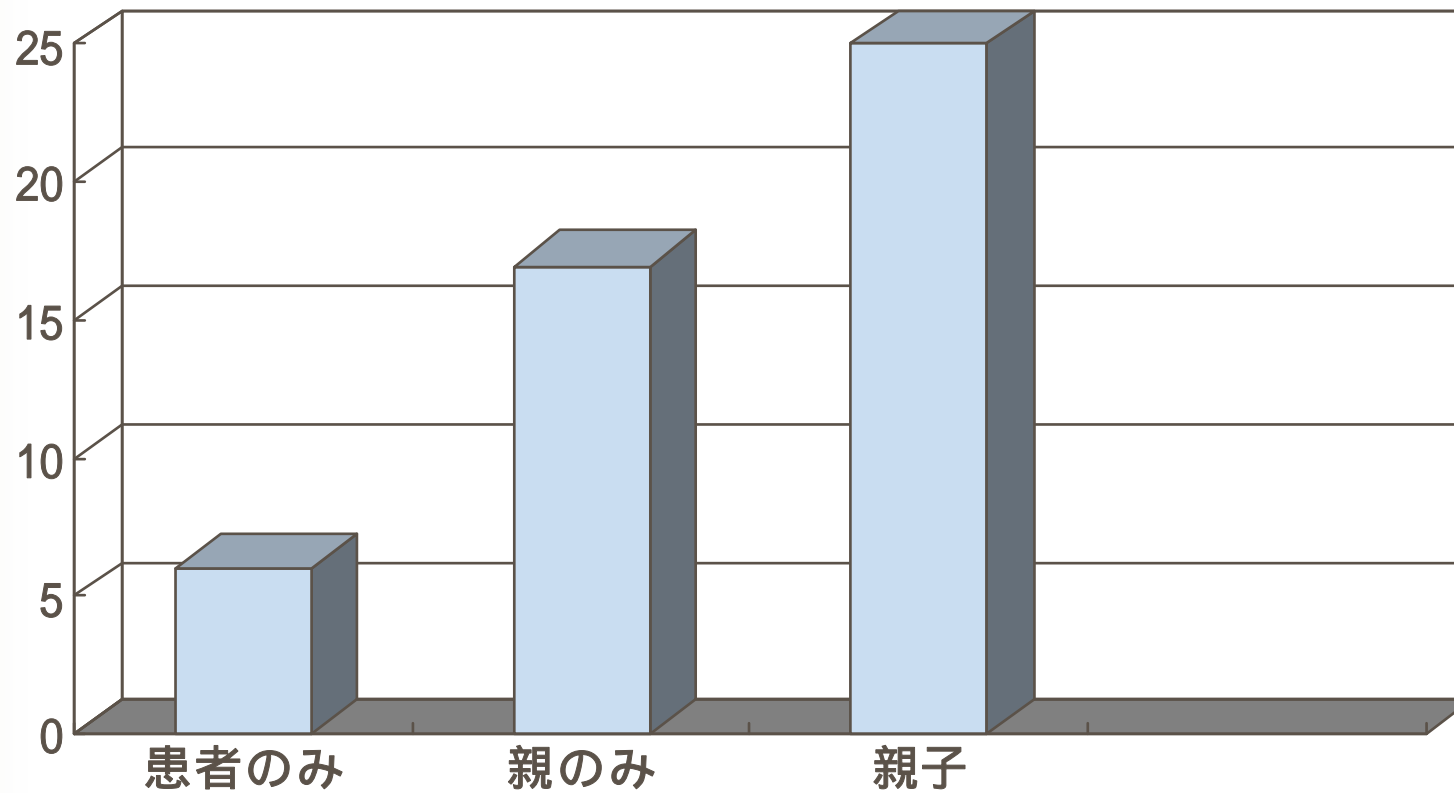


当院に来院
した口蓋裂患者の意識調査
(1986.4-1990.12)

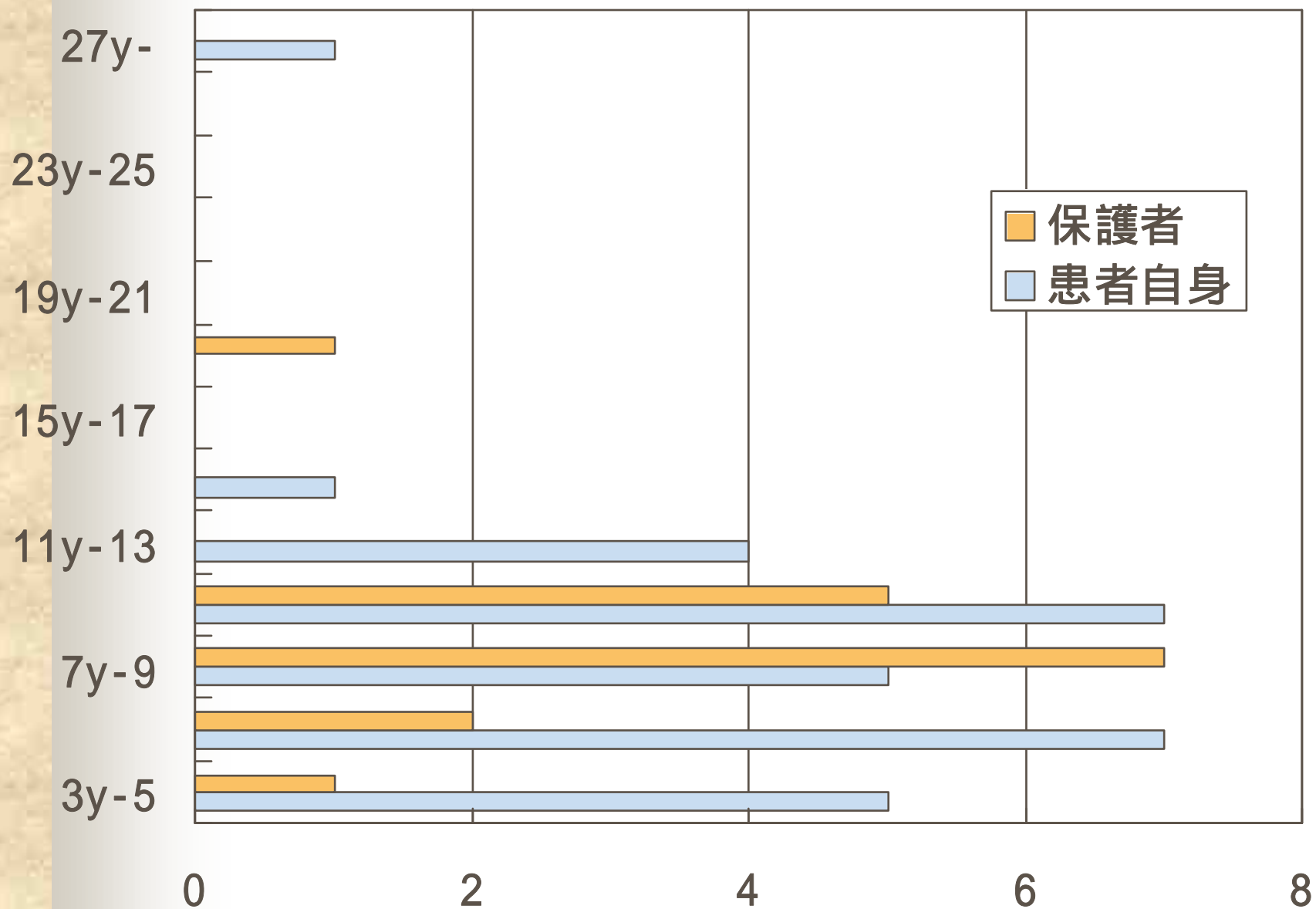


破裂部位

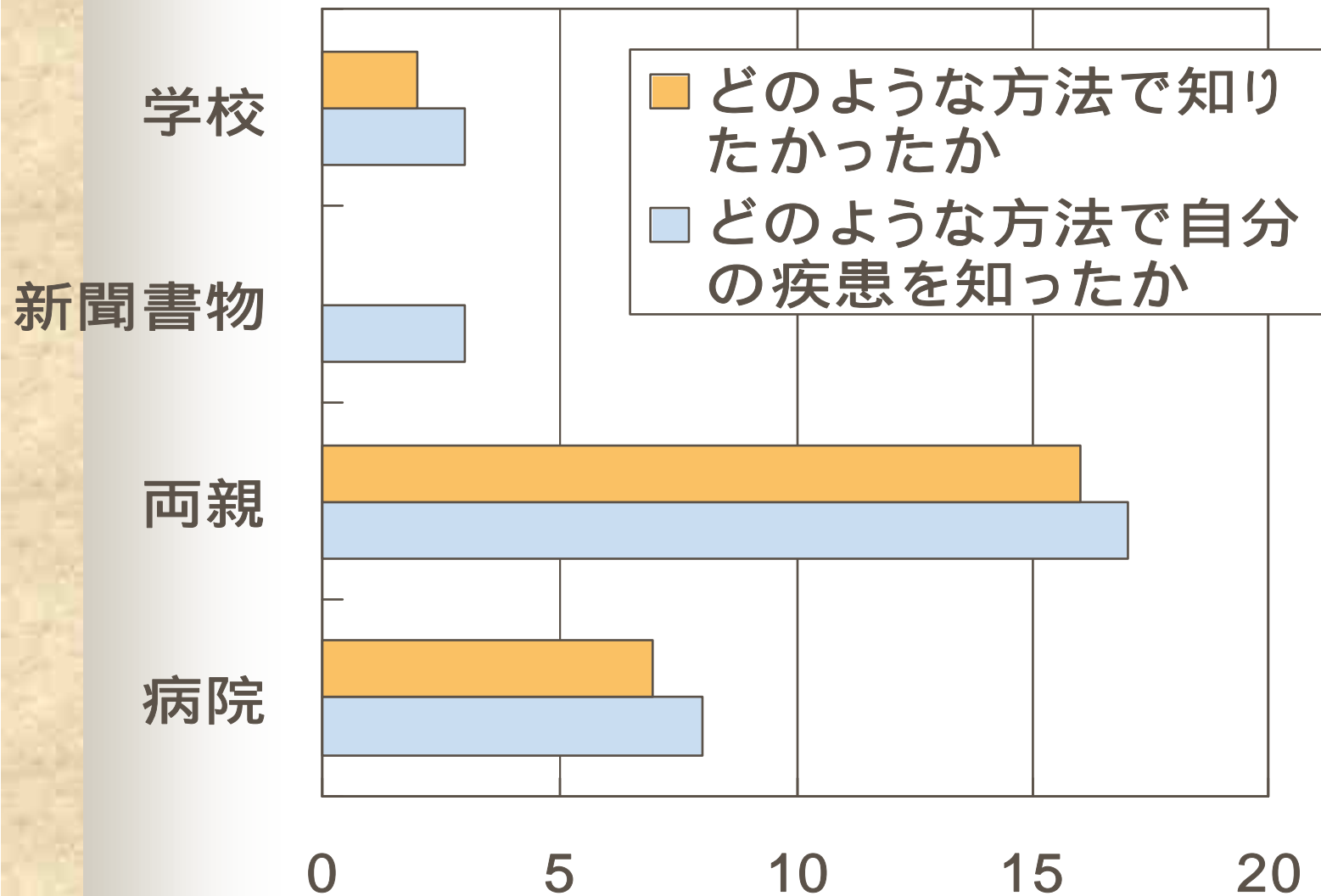
アンケート回収内訳



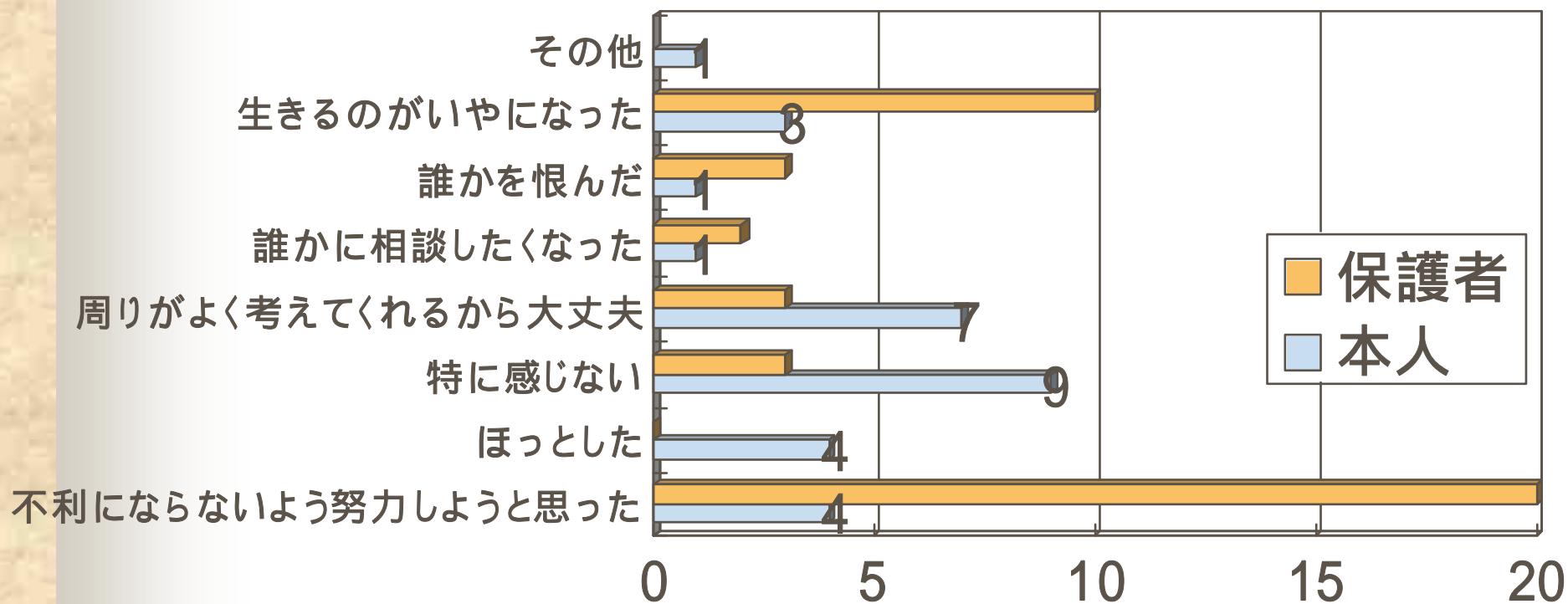
自分の疾患を知った年齢



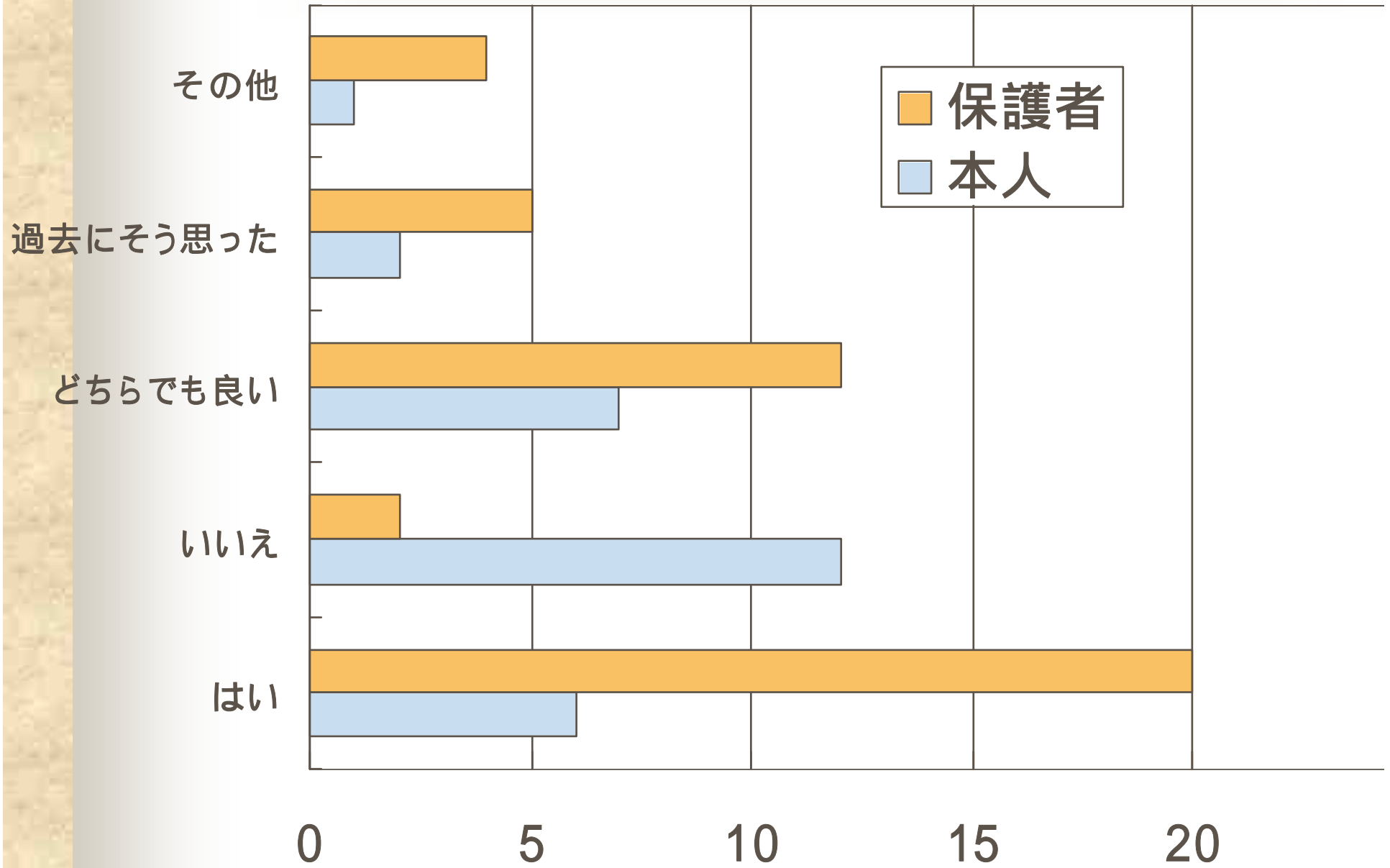
知った方法



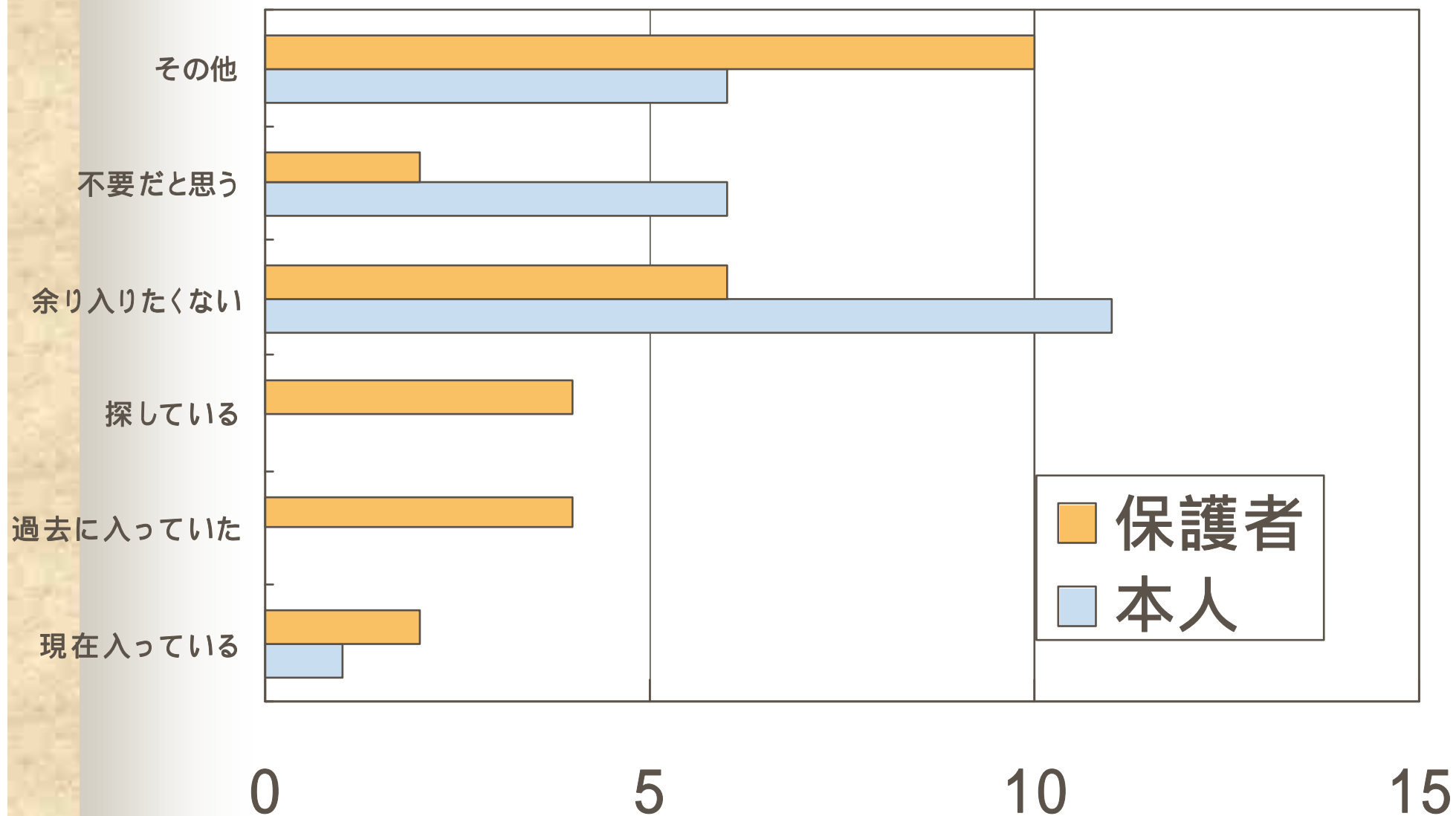
知ってどう感じましたか



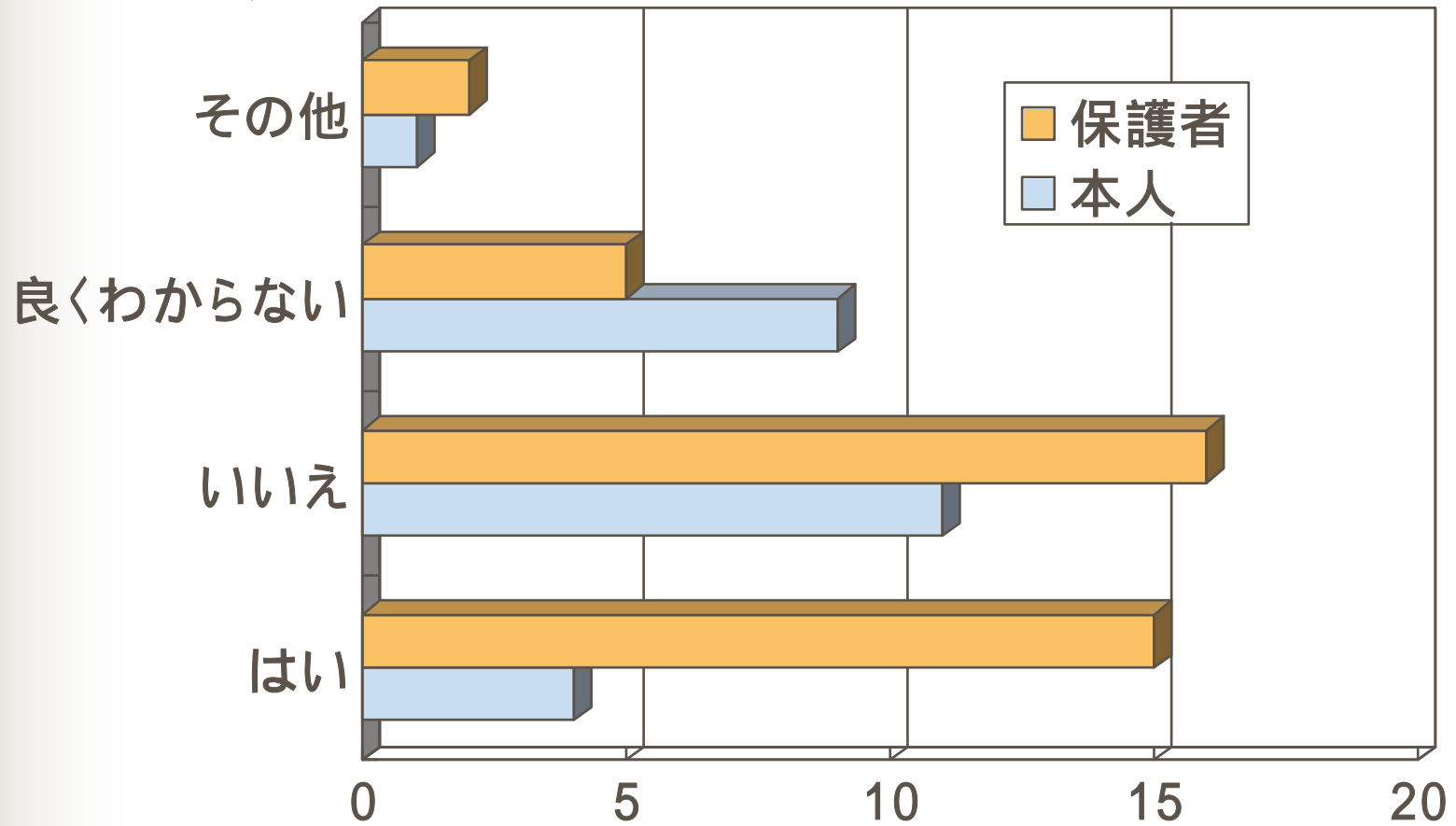
同じ疾患を持つ人と合ったり話したりしたいか



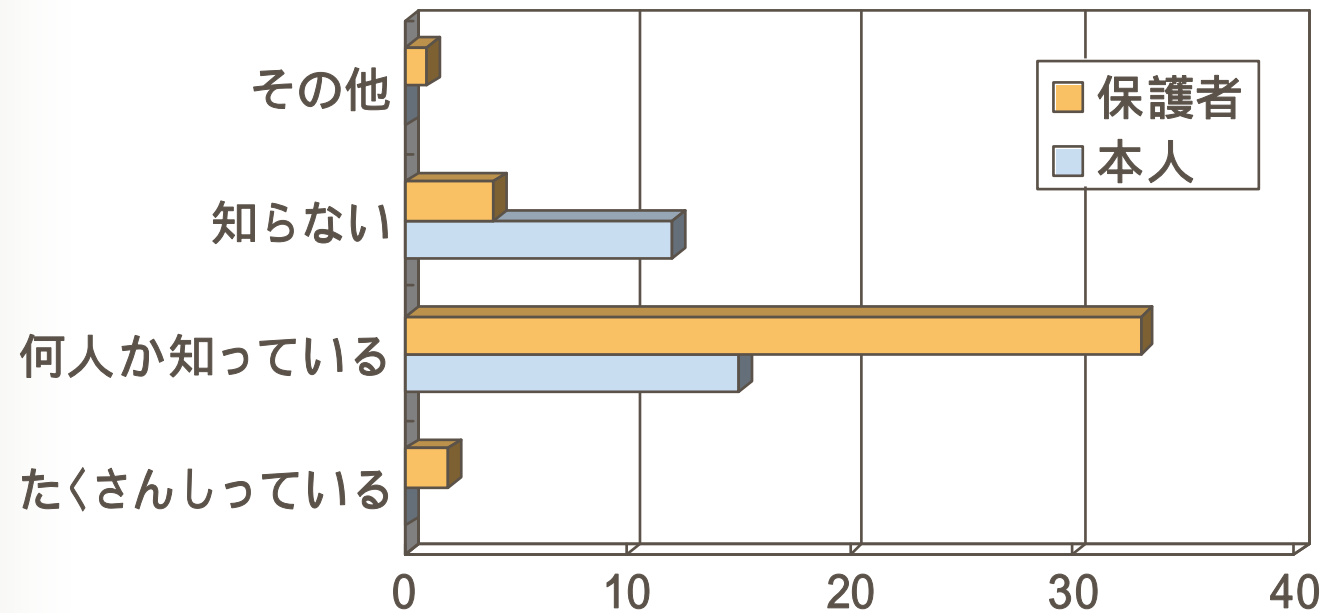
特定のサークルに入っているか



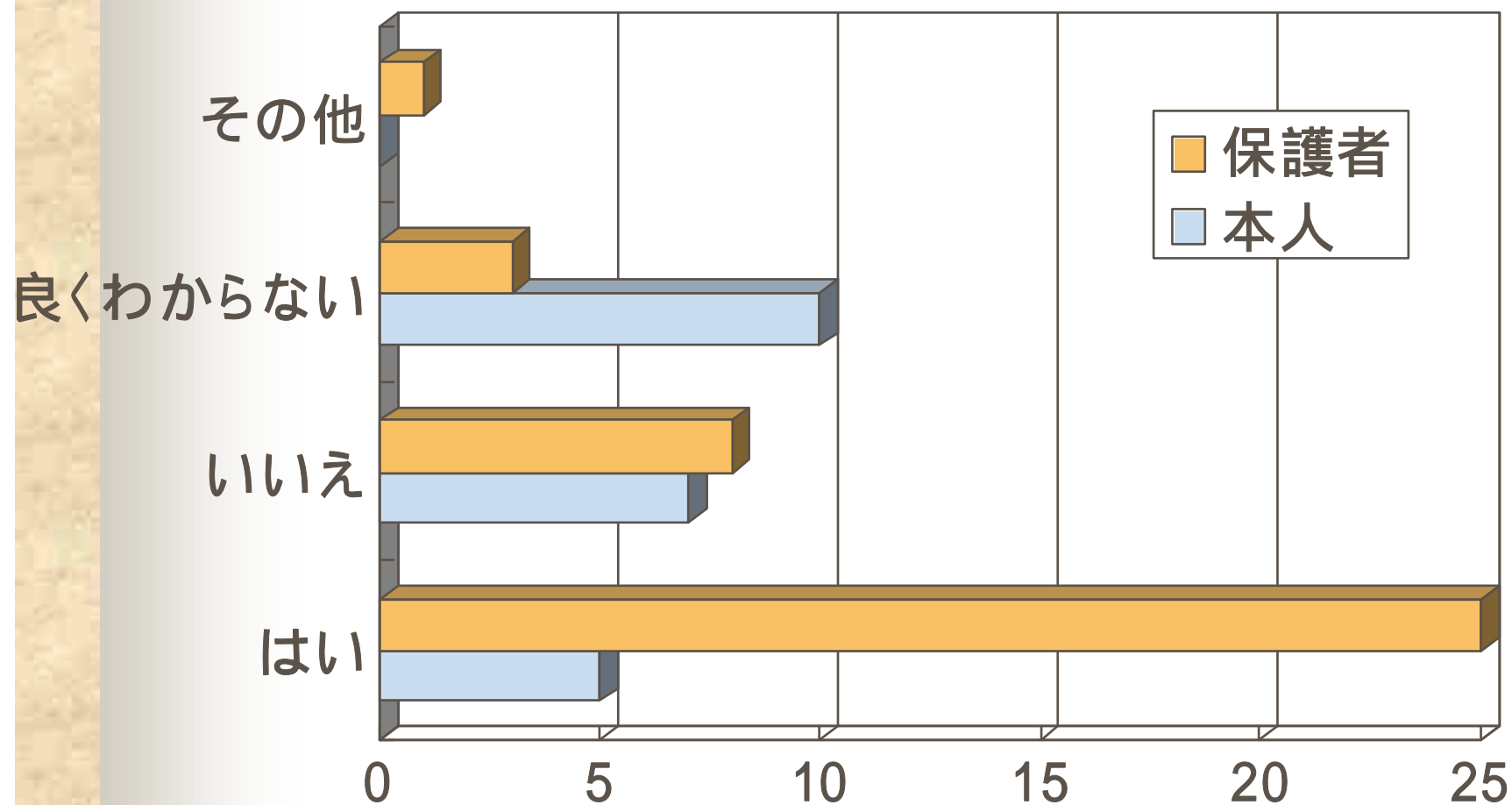
隣近所の人にもっと理解してほしいか



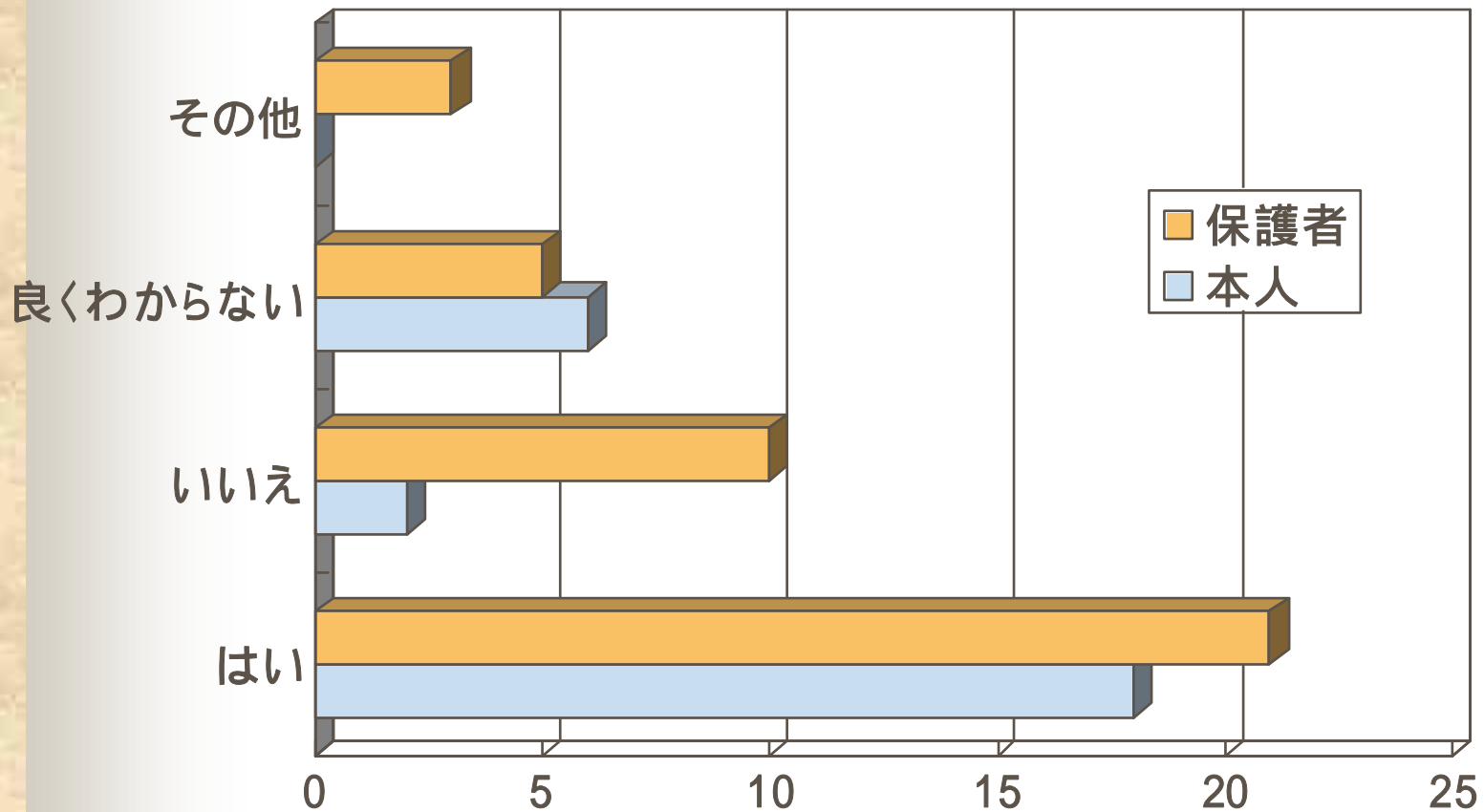
同じ疾患を持つ人を知っているか



学校の人にもっと理解してほしい ですか



学校の人はこの疾患を知っていますか



親戚の人にもっと理解して欲し

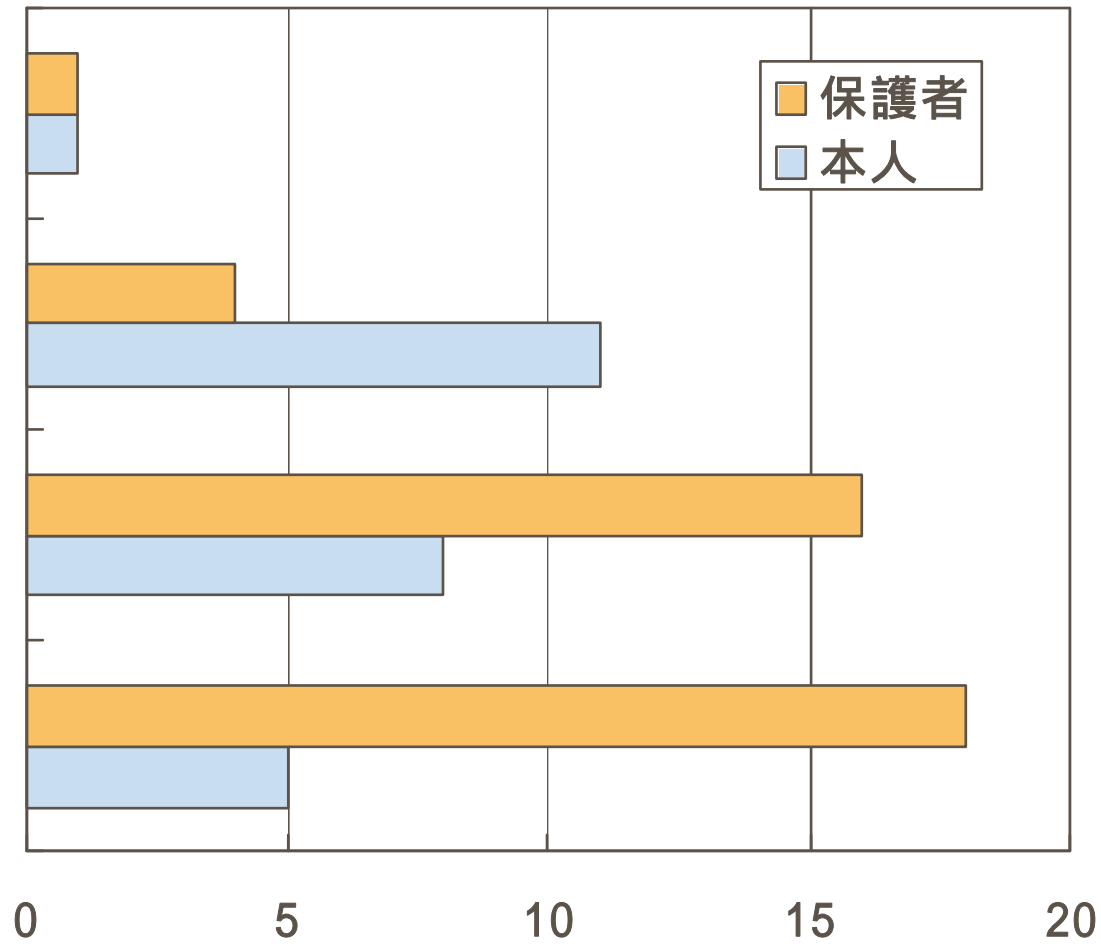
いか

その他

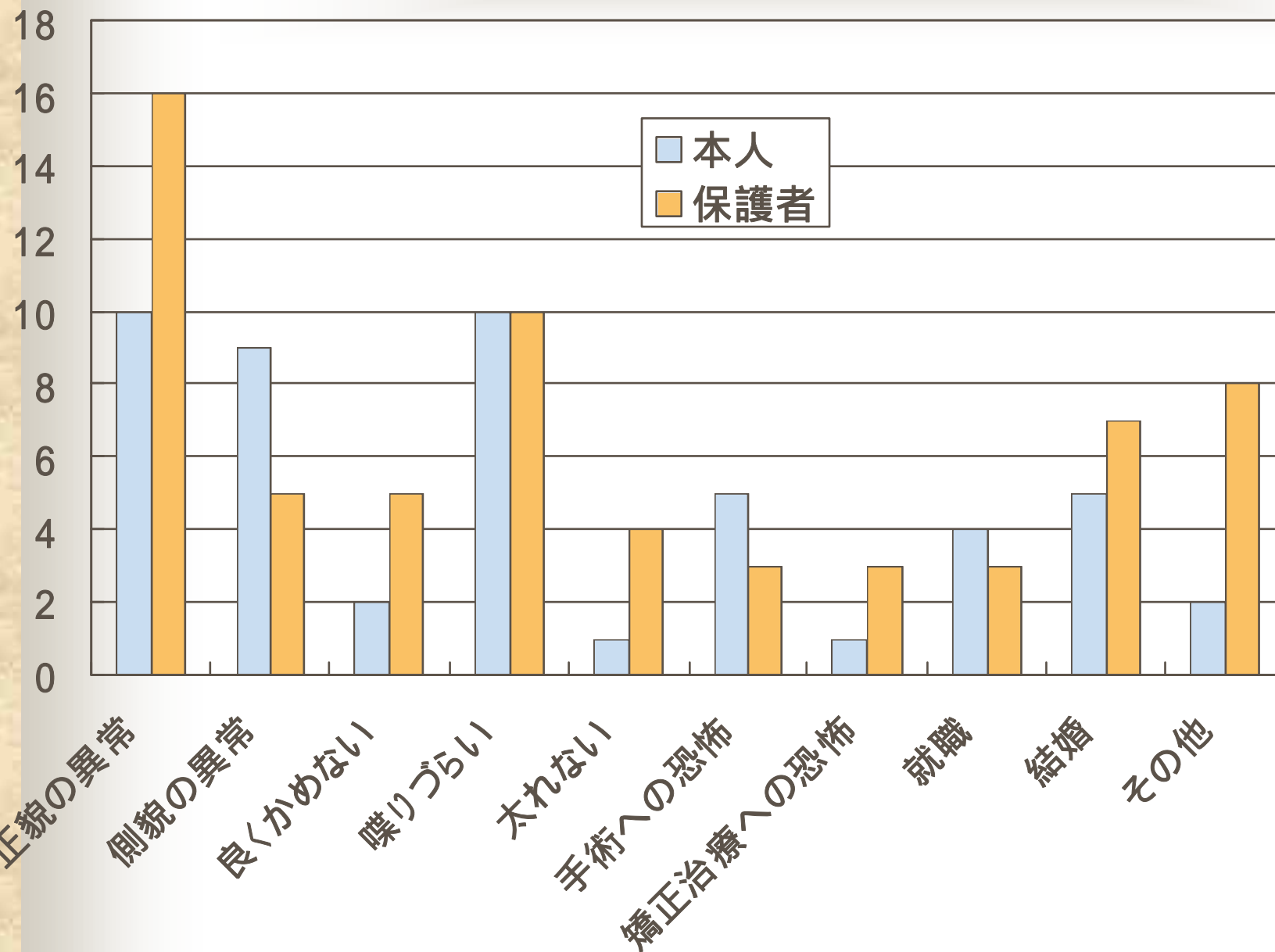
良くわからない

いいえ

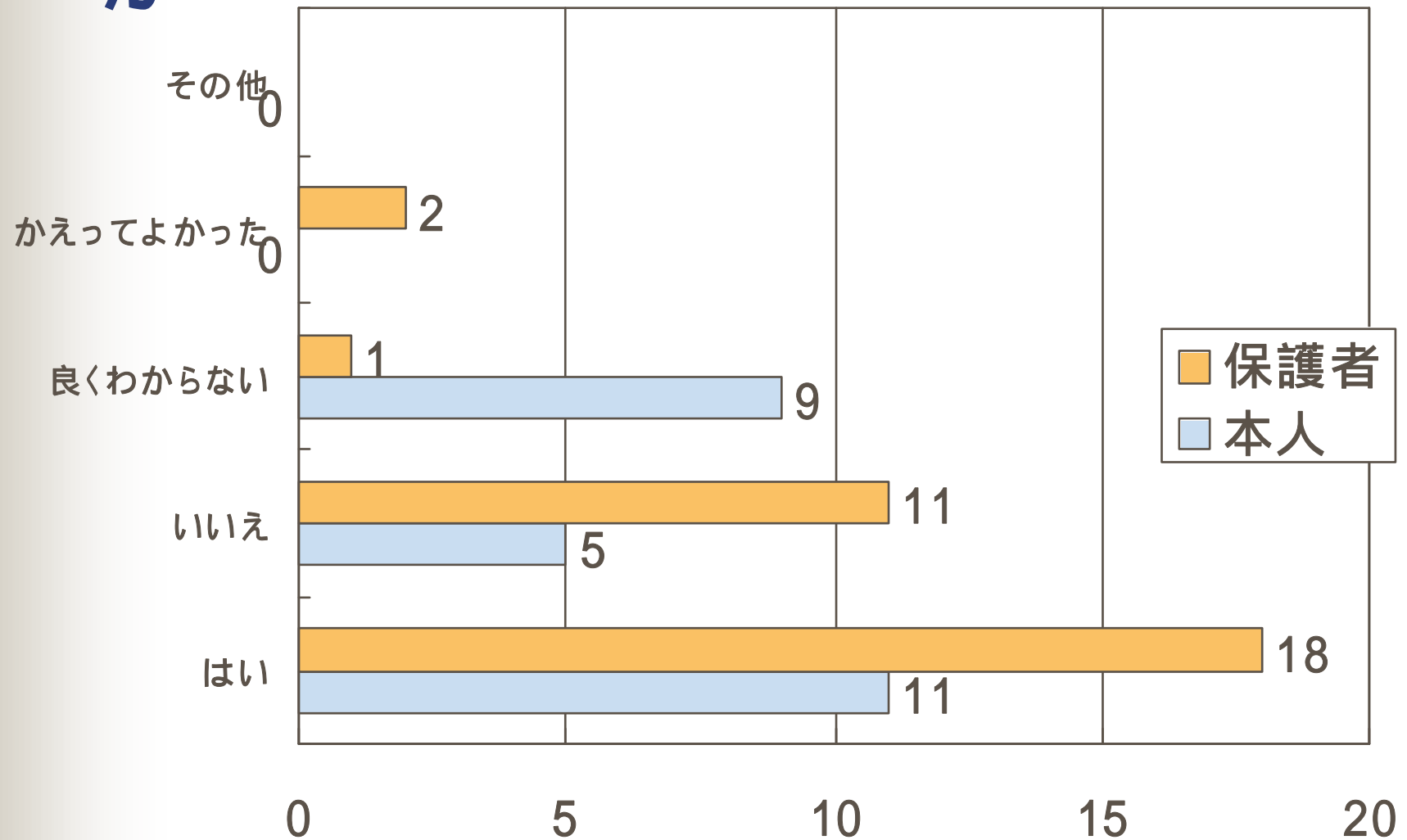
はい



この疾患により困る事



この疾患により不利を感じますか



障害を軽減するためのアプローチについて上田らは4つの方法を述べている^{11,12)}。

1. 機能形態障害に対して—“治療”的アプローチ
2. 能力障害に対して—“適応”的アプローチ
3. 社会的不利に対して—“環境改善”, “改革”的アプローチ
4. 心理的問題に対して—“心理”的アプローチ

結論

1. 本人は唇顎口蓋裂ということを知りたいと親、保護者から教えて欲しいと思っている回答が多かった。
2. 自分が唇顎口蓋裂であることを12才までにほとんどが認知していた。
3. 保護者の約40%が子供に唇顎口蓋裂について説明して、そのうち子供の年齢9才以上が40%であった。
4. 患者本人よりも保護者のほうが周囲の人たちの理解を積極的に望んでいた。

